



【審判打合事項】

1. 》》》 **大会要項の確認**（試合時間・交代人数・勝敗を決定する必要の有無・延長時間等）

2. 》》》 **第4の審判員**（force）

- 「ボール管理」
- 「交代の手続き」交代用紙の確認、スムーズな選手交代を努める。
- 「ベンチコントロール」判定へのクレームを繰り返すようであれば、冷静になるよう努める。
- また、侮辱的な異議があれば、誰がどのような言葉をはったか明確に主審に伝える。
- 「負傷した競技者への対応」担架の合図は、両手と笛、負傷者をピッチに戻すときは、守備側に不利のないタイミングで戻す。
- 「ロスタイム」前・後半終了1分前ころに交代ボードを持って立つ。主審の指示でボードに数字を作ってから確認後、前・後半が終了する前に掲げて表示する。ない場合はそのまま起立している。
- 「ブッキング」得点・警告等は、審判報告書に記入できるように詳細を記録する。
- 「重大事項」間違えて別の競技者を警告した、2枚目の警告なのに退場していない、乱暴な行為、不正な行為、得点の取消、その他重要なことを主審・副審1に伝える。

3. 》》》 **副 審**（assistant referee）

- 「オフサイド」オフサイドラインの100%キープ。WAIT & SEE、オンサイドから攻撃側競技者が来たか、GKが保持したなどフラックアップが必要ないかの状況と、守備側競技者を經由するボールはいわゆる守備側の競技者からのね返しと見るか、プレーと見るか、その競技者のプレーが自分で思うようにボールコントロールできているかということも判断。また、オフサイドポジションの競技者とGKとの接触を避けるための、早めのフラックアップの見極めを確認する。
- 「得点の合図」クリーンシュートとそうでない場合の得点のシグナル、〔例：ゴールラインを割って得点となるがGKがボールをかき出した、センターマークを指しながらセンターライン付近までダッシュする。〕
- 「シグナルの指し違いの防止」主審と副審の役割分担を決めて、コーナー・スローイング・ゴールキック等でシグナルを指す際は、アイコンタクトやショートシグナルで一致した見解を示す。
- 「ファウルの援助」合図は旗を振る。守備側のファウルであれば右手でフラックを振る、攻撃側であれば左手でフラックを振ることを徹底する。
特に手を使ったファウルと影響の有無、タックルやファウルチャージで警告に値する場合は、シークレットサインなどで伝える。



- 「ペナルティーエリア内の援助」守備側の競技者が手でボールを止めた、プレーした。主審の見えないところでのファウルを100%確認できた場合に伝える。
また、攻撃側の競技者が手で得点しようとした場合も援助する。
- 「インプレー中のPK」主審は競技者の侵入の監視。副審はGKの飛び出しとゴールラインの監視。アイコンタクトやシークレットサインで確認する。
- 「10ヤードの監視」副審サイドのFKで壁を下げるためにピッチに入るときは、主審の合図で入り、元の位置についてから主審の合図で再開する。
- 「交代の合図」副審1・2ともにフラックで合図する。
- 「ベンチコントロール」副審1と第4の審判は、協力をしてベンチコントロールをする。主審にピッチ内に集中できるように無駄に神経を使わせないようにコントロールする。
- 「重大事項」主審が見ていなかった不正行為や警告・退場の対象者の間違い、得点が成立しない場合や再開方法が間違っているときは、再開前に必ずその間違いを伝える。

4. 《》 チームワーク (Team work)

- 試合を担当するすべての審判員は、4人が一致したルールの解釈の下、それぞれの担当する任務を遂行する。ただし、笛を持っているのは主審のみである。
- その主審は、4人のチームワークを引き出すために判定を下すに当たっては、他の3名の審判員とコミュニケーションを図り、誰もが納得して分かりやすい判定をすることがチームワークを強くする。また、判定を下すに当たって、冷静に瞬時に的確に、勇気を持って決断をしなくてはならない。
- そのためには、コンタクトを取っている副審、またはコンタクトを取っていない副審・第4審判の援助も採用の判断材料にする。
- そこで主審以外の審判員は、まずは判定を主審に任せる、WAIT & SEEの気持ちで。
- ただし、単なる仲良しチームにならずに間違った判断を下すことを感じたり、コンタクトをした際に分かった場合は、強く進言する。それは判定を下した後でも間違いを気づかせる勇気が必要である。
- 困難な局面を打開するのにチームワークが必要不可欠である。

これからの日本サッカーに求められるものは、タフ、スピーディーそしてフェアである。そのことに私たちも強く係りましょう。